

国際センター所長 中川眞 (大学院文学研究科教授)

国際戦略の柱

現在の市立大学の国際交流の根幹は「大阪市立大学基本計画」(平成元年)の「双方向型国際交流ができる大学づくり」に遡ります。そこでは、学生、教員、研究者の国際交流システムの整備による国際化体制の構築が謳われました。留学生宿舍・ゲストハウスの開設、外国人招聘研究者制度、アジア・日本研究フェローシップ、サンクトペテルブルク大学等との学生交流など、ソフト、ハード事業が稼働していったのですが、専ら実務的な施策レベルに終始し、高度な戦略性があったという感じではありません。

2年前に国際センターが設立されたのは、事務の効率的な統合といった行政的な側面もさることながら、大学として一貫した国際戦略を打ち出すべきであると、遅まきながら気づいたからです。しかも、使うべき用語は「国際」から「グローバル」へと移っています。なので、市大の国際センターは、英語では「**Global Exchange Office**」と表記しています。

国際化とは、入学制度をはじめ、複数言語によるカリキュラムやプログラム設計、教育の質保証、学位認定等のあり方について国際的な相互調整と合意を図り、できる限り多くの学生が自由に国境を越えて学ぶことが可能な制度を構築する動きを意味します。いっぽうグローバル化とは、(好むと好まずにかかわらず)市場原理に基づきながら、世界基準(往々にしてアメリカ基準)に依拠する教育・研究制度の追及により、優秀な教員、学生を獲得するための戦略を展開する状況のことをさします。現在では、国際化というよりグローバル化にどう対応するのかが、大学に問われています。私個人は、グローバル化のもたらす文化的、経済的歪みに対しては危機感をもって、市場原理主義的なグローバル化を全てよしとは決して思いません。そうはいえども、世界の流れを見据えて現実的に対応していく必要もあるのです。

国際センターの責務は、市大の一貫性ある戦略を提案し、実現を促していくことです。ちょうどいま基本戦略を策定中で、その案をここにお示ししたいと思います。①インバウンド(受入)戦略:グローバル・プラットフォームの構築、②アウトバウンド(派遣)戦略:グローバル・リーダーを育てる、③アジアシフト:アジアを駆ける!、の3方針です。

①では、世界から学生や研究者、市民が来てもらえる、誘客のできる魅力ある大学にしたいと思います。海外進出を目ざす一方で、自らの大学を交流拠点として整備するのです。つまり、居ながらにしてグローバルを味わえるようにしたいと思います。具体的には、市大のなかに海外大学のブランチをつくりたい。海外の大学を廻っていますと、協定校のために交流拠点を提供しています。例えば、メルボルン大学ビジネス講座、チュラロンコーン大学アジア文化講座などを本学で開設すれば、学内グローバル化の目玉ソフトになります。また非漢字圏の留学生を呼び込むために、英語によって学修するグローバル大学院を設置したいと思います。例えば、日本型ビジネスコース(文系)、環境コース(理系)の新設が考えられます。また、市大に留学して二重の学位がとれるダブル・ディグリー制度も進めたく思っています。以上のうち、グローバル大学院とダブル・ディグリー制については、既に学内で公式に検討・準備が始まっていますから、最速だったら平成二六年度から実施されるかもしれません。

②のアウトバウンド(派遣)戦略ですが、コミュニケーション力、問題解決・交渉能力が高く、タフな人

有恒会報 国際シリーズ5

間を生み出すグローバル力育成プログラムを準備することが、大学の底力を作ります。特に日本企業からは海外で働ける即戦力を求められています。奨学金の整備、単位認定などの制度的な後押し、就活との連携などの支援を充実させ、明確なメリットを提示しながら、高いハードルを設けて、社会のリーダーになれる学生を育てたいと思っています。その要となるのは、共通（教養）教育の抜本的な改革です。教育推進本部が計画しているグローバル・コミュニケーション（副専攻）コースを充実させ、海外への武者修行を応援する。若者の「引きこもり」傾向が指摘されていますが、実は最近、市大の海外留学プログラムへの応募が俄然増えています。環境さえ整備すれば、海外に出たいという学生の潜在ニーズは高いと想定してします。

③のアジアシフトですが、アジア地域における喫緊の諸問題（環境・エネルギー問題、自然災害、人権福祉、テロ等）を解決するために、大阪で鍛えている市大の叡智を結集し、欧米型ではない文理融合のアプローチによるアジア独創の学問（例えば防災科学、新エネルギー等）を打ち立てるとともに、アジアで活躍できる人材を育成して、アジア・ナンバーワン大学をめざします。・・・と威勢のいいキャッチフレーズですが、現実とは違います。市大学生はアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダなどの欧米志向が圧倒的なのです。一方、留学生の90%以上はアジアから。出入りのアンバランスはとても気になります。①では、欧米圏からの学生の受け入れに注力し、②③では、市大の学生・教職員の目をアジアに向けたたいという思いがあります。

以上の戦略を、府大との統合という大きな課題と整合性を保たせながら推進していくのが、国際センターの当面の仕事と考えています。